



「信越化学サステナビリティレポート2024」

第三者検証 意見書

2024年6月26日

信越化学工業株式会社
代表取締役社長 齊藤 恭彦 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

石井 浩

■検証の目的

本検証は、信越化学工業株式会社が作成した「信越化学サステナビリティレポート2024」(以後、報告書と略す)に記載された下記の事項について、レスポンシブル・ケア検証センターが化学業界の専門家としての意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
- 2) 数値以外の記載情報の正確性
- 3) レスポンシブル・ケア活動(以後RCと略す)及びサステナビリティ活動の内容について
- 4) 報告書の特徴について

■検証の手順

- ・ 本社において、各サイト(事業所、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性、及び数値以外の記載情報の正確性について調査を行いました。調査は、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、並びに彼らより資料提示と説明を受けることにより行いました。
- ・ 武生工場の検証は、本社と武生工場を繋いだWeb会議で、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性、及び数値以外の記載情報の正確性の調査を行いました。調査は、各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること、証拠となる資料提示・説明を受けることにより行いました。
- ・ 数値及び記載情報の調査についてはサンプリング手法を適用しました。

■意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・ 本社および武生工場では換算係数等を組込んだ自動集計システムを採用しています。さらに、異常値入力時の警告表示、数値の変更があったことを認識させるセルの着色化等を実施し、数値の正確性確保に工夫されており数値は正確、かつ効率的に集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・ 報告書に記載された情報は正確であることを確認しました。原案段階では表現の適切性或いは表現の分かりやすさに関し若干の指摘をしましたが、現報告書では修正されており、現在修正すべき重要な事項は認められません。
- 3) RC活動及びサステナビリティ活動の内容について
 - ・ サステナビリティの基本方針のもと、「信越化学グループのサステナビリティの重要課題」9項目を明示し、経営トップがRC活動及びサステナビリティ活動についてリーダーシップを発揮されていること、重要課題の法遵守、安全と健康、省エネ・省資源等に取組み、特にカーボンニュートラル達成に向けた温室効果ガス削減計画を公表し、推進していることを高く評価します。
 - ・ 労災事故が発生時には、全社で労災内容および再発防止を情報共有し、水平展開を図っています。また、プロセス事故防止のため、高度なリスクアセスメントの導入を図っていることを評価します。
 - ・ 武生工場では、全ての作業の危険度をランク分けし、危険度の高い作業について、工場全体で安全対策を検討しており、その検討結果を作業ごとのマニュアルに落とし込み、安全確保の徹底を図っていることを評価します。

また、武生工場地区の信越半導体武生工場は、全従業員のルール遵守の徹底により、1970年の操業開始以来1,680万時間無災害(休業災害無し)を継続し、厚労省より第5種無災害記録証を授与されています。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・ 今年度の報告書では多様性をテーマとして、関係会社を含む従業員の思い「自分は何に挑戦するのか」をインタビューとして紹介しています。従業員の意欲を掻き立てる内容となっています。
 - ・ 報告書の構成が従来と大きく変わり、親近感が持てるよう工夫されています。女性の活躍を含め従業員の取り組み、工場の状況、製品(開発)等のアピールが分かり易く表現されています。

-以上-